

【学習指導案の様式例】（小学校版）

※指導案は教科・領域等により違いがあるので、各校で工夫して作成してください。

第○学年 ○○科学習指導案

令和○年○月○日（ ）○校時
指導者 職名 ○○ ○○
場 所 ○年 ○組 教室

1 単元（題材）名 「 」

2 単元（題材）の目標

- ・本単元（題材）を通して児童に身に付けさせたい力を、学習指導要領の目標や指導内容と関連付けて具体的に記述する。

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文末は「～している。」「～できる。」等	文末は「～している。」等	文末は「～しようとしている。」等

- ・国立教育政策研究所から示されている「学習評価の在り方のハンドブック 小・中学校編」、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」等を参照する。
- ・児童の姿がどのような学習状況となっていれば、単元の目標が達成できたと判断するのか、その拠りどころとなる規準を、年間計画に基づいて観点ごとに簡潔に記述する。

4 単元（題材）について

（1）教材（題材）観

- ・教材（題材）の持つ価値や内容、選択した理由、教材の系統性等を記述する。
- ・発達の段階や教材の特質等の観点に即して教材と児童との関係を記述する。

（2）児童観（児童の実態）

- ・本単元（題材）の学習に対する関心の程度や学習経験の有無、基礎となる知識や技能の習熟状況等について分析的に記述する。

（3）指導観

- ・教材観と児童観を踏まえ、本単元（題材）を通して育てたい児童生徒の姿を実現するための指導の方向性を記述する。
- ・本単元（題材）の目標を達成するための、指導や支援の手立てを具体的に記述する。

5 研究テーマとの関わり

- ・研究テーマから見た本単元（題材）における児童の現状、本単元（題材）を通して育てたい姿や指導上特に留意したいことを記述する。
- ・研究の視点と、視点からの具体的指導の手立てを記述する。

6 指導と評価の計画

「ねらい」「主な学習活動」「指導上の留意点」「時数」「評価規準（評価の観点）」等について記述する。

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1				
2		・知①（ノート分析）	・思①（活動）	
3		・知②（小テスト）		・態①（ノート分析）

・評価資料の収集・分析に必要以上の時間を要することのないように、留意する。

7 本時の指導

(1) ねらい

・本時で、身に付けさせたい力と学習活動の具体を簡潔に記述する。単元目標との関連、指導計画の該当する時間との整合性にも留意する。

(2) ねらいに迫るための手立て

・授業場面の「どこで」「どのような働き掛けを」「なぜ行か」などについて、具体的に記述する。

(3) 指導過程（○時間／○○時間）

段階	主な学習活動	主な発問と指示 予想される児童の反応	指導上の留意点 ◇評価（評価規準と評価方法）
導入 ○分	○具体的な学習活動について、児童の立場から記述する。		○本時の目標を達成するための具体的な手立てを記述する。（例：～を○○することにより、見通しを持って△△しようとしている。）〔態度〕
展開 ○分	・「～に気付く」「～について考える」「～について話し合う」などの表現となる。	○主な発問を具体的な言葉で記述する。 ○児童の反応を具体的に記述する。 例えば、 ◎「十分満足できる」状況と判断される児童の考え ○「おおむね満足できる」状況と判断される児童の考え △「努力を要する」状況と判断される（「おおむね満足できる」に達していない）児童の考え	○特別な教育支援を必要とする児童への配慮事項や手立てを記述する。 ○学習形態や、教材や資料の扱いについて、指導の意図を明確にして記述する。 ◇「6 指導と評価の計画」の評価規準に対応させて記述する。
終末			◇「6 指導と評価の計画」の評価規準に対応させて記述する。 ～している。〔思・判・表〕 （観察・ノート）

めあて（本時の目標を達成するための学習課題を児童向けの言葉で記述する。）

(4) 評価

本時の評価規準	<ul style="list-style-type: none">・「おおむね満足できる」姿となる。「～している。」・「6 指導と評価の計画」の評価規準が入る。
「十分満足できる」と判断される児童の状況	<ul style="list-style-type: none">・「十分満足できる」状況と判断される児童の姿を具体的に記述する。
「努力を要する」状況と判断される児童への手立て	<ul style="list-style-type: none">・指導や支援の具体的な手立てを記述する。

(5) 板書計画

- ・本時のめあてや学習の手掛かり，児童の学びの軌跡，本時のまとめや振り返りなど，児童の学習の助けとなるように内容や構造を工夫する。

(6) その他

- ・座席表，ワークシート，授業に関連するものがあるときは添付する。